



保育科 特任講師

中山 友江 (なかやま ともえ)

Nakayama Tomoe

自己紹介 (プロフィール)	高校の教員として勤務した後、平成 20 年 4 月から短大に参りました。「健康」と「誠意」が私の生活信条です。これは祖母の「達者が一番」と、父母の「どうせやるなら、ちゃんとやる」の口癖からきています。現在、花を愛でたりウォーキングをすることで心身の健康づくりに努めています。
学生へのメッセージ	思い切り自由に学ぶことができるのは学生時代だけです。知的面でも精神面でも悔いのないよう前向きに歩いてほしいと思います。先(将来)を見つめて、今の私はこれでよいかかと振り返る時間も大切にしてください。
保有学位	教育学士
保有資格・免許	中学校教諭専修普通免許状(家庭) 高等学校教諭一種普通免許状(家庭)
研究分野	学校・家庭・地域教育への新聞の活用法(NIE) 家庭経営論
主な担当科目	保育学 家庭科教育法 教職実践演習
学内での活動	
学外での活動	蕪崎市民生委員児童委員・主任児童委員(H13~H28.11) 蕪崎市主任児童委員部会長(H22~H28.11) 社団法人日本新聞協会NIEアドバイザー(H23.3~) 蕪崎市子ども・子育て会議委員(H25.11~) 蕪崎市子ども・子育て会議副会長(H29.2~) 蕪崎市立蕪崎西中学校評議員(H26.4~)
所属学会	

主な職務実績（抜粋）

事項 (単独・共同)	年月日	概要
(高大連携) 総合的な学習の時間及び産業社会と人間・社会を知る (単独)	H26. 5 H26. 7	1年生を対象に、「社会に関心を持って行動する人になろう」をテーマに、社会を知るために新聞を活用することや、新聞を楽しく読むための工夫について講演した。(主催及び会場：山梨県立塩山高等学校、甲府城西高等学校)
(教員研修会) 教育に新聞を利用する (単独)	H26. 6	NIE 実践推進校の教職員研修会の講師として、新聞の構成や記事の書き方、工夫点及び学習への利用の仕方などについて講演した。(主催及び会場：山梨県立富士河口湖高等学校)
(教員研修会) 新聞の教育利用研修会 (共同)	H26. 8	小・中・高・支援学校の教員を対象に、新聞を学校教育に活用する意義やその方法と効果等について講演を行った。新聞という素材を教材に変える演習を通して、新聞の効果的な利用法について提案した。(山梨県総合教育センター主催、於：県総合教育センター)
(高大連携) 総合的な学習の時間及び産業社会と人間・社会を知る (単独)	H27. 5 H27. 6 H27. 7	1年生を対象に、新聞の読み方親しみ方について演習を交えて講演した。(主催及び会場：山梨県立塩山高等学校、山梨高等学校、甲府城西高等学校)
(教員研修会) 新聞の教育利用研修会 (共同)	H27. 8	小・中・高・支援学校の教員を対象に、「新聞の教育利用」をテーマに講演を行った。(山梨県総合教育センター主催、於：県総合教育センター)
(高大連携) 総合的な学習の時間及び産業社会と人間・社会を知る (単独)	H28. 5 H28. 6 H28. 7 H28. 10	1年生を対象に、「社会に関心を持って、考えて行動する人になろう」をテーマに講演した。選挙権年齢が18歳になったことを取り上げ、新聞の講読や楽しく読むための方法などについて演習を交えて伝えた。(主催及び会場：山梨県立塩山高等学校、笛吹高等学校、山梨高等学校、甲府城西高等学校)
(教育研修会) 新聞の教育利用研修会 (共同)	H28. 8	小・中・高・支援学校の教員を対象に、「新聞の教育利用」をテーマに講演を行った。新聞講読と学習意欲及び社会への関心の強さ等に関連させて、新聞の活用を提案した。(山梨県総合教育センター主催、於：県総合教育センター)

主な教育研究業績（抜粋）

著書、学術論文等 (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等	概要
教科書「新版生活一般」「家庭一般」「生活技術」<指導資料 vol. 1 > (共著)	H6.	実教出版	高校家庭科の男女必履修にあたり各教科書に基づいて、年間指導計画案と授業における指導例を指導資料ノートとして作成した。「親の役割・母性の健康と父親の役割」を担当し、働く女性の増大に伴う

			母性保護の課題や父親の責任と役割等についての重要性を提起した。
高等学校 指導と評価の事例集 (共著)	H10. 3	山梨県教育委員会	高校生の多様化や社会の変化への対応として、指導内容の精選、体験的学習の重視、教育機器の導入など指導の工夫や改善及び学習意欲を喚起するための観点別評価のあり方を研究、提案した。「家庭経済と消費」「住生活の設計と住居の管理」「ホームプロジェクト実践と学校家庭クラブ」分野の実践事例を示した。
生活を豊かに楽しむ姿勢を養う (単著)	H13. 3	財団法人消費者教育支援センター	財団法人消費者教育支援センターが作成した「食生活Q&A・高校生の食生活理解度」の教材は、知識を日常生活に活かす姿勢や生活の中から課題を発見し解決しようとする態度、また視野を広げて物事を見ようとする興味関心の高い生活姿勢を養うために効果的であることをまとめ、実践校の感想として採用された。
主体的な学びを通して、生きる力を育む指導のあり方 (単著)	H18. 6	山梨県 NIE 実践報告書 (2004-2005 年度)	山梨県立韮崎高等学校における新聞の教育的活用について、実践方法と成果をまとめた。生徒の意見を新聞へ投稿する活動も行い、山梨日日新聞社が「私も言いたい・10 代の意見」として掲載するきっかけとなった。